

第60回くらしの中の竹工芸展 報告書

【開催主旨】

「竹の器と暮らす心豊かな生活」をテーマに、別府竹細工の伝統技と生活に潤いをあたえる豊かな造形美を融合した、新しい竹工芸品を募集。

美術性のみならず産業工芸、生活工芸として日常生活に密着した商品性のある作品を顕彰することにより、別府竹工芸の振興を図る。

【審査基準】

別府竹細工の品格を有し、生活に潤いをあたえる「実用性」と「造形美」を兼ね備えた新しい感覚の作品。

【応募期間】

令和5年12月15日(金)～12月25日(月)

【審査会】

令和6年1月22日(月) 竹細工伝統産業会館

【応募総数】

応募者80名、応募点数109点(内、県外8名、13点)

【審査委員】

大橋 重臣 (竹工芸家)

岐部 笙芳 (竹工芸家 日本工芸会正会員)

小谷 公人 (大分県産業科学技術センター 産業技術アドバイザー)

友永 尚子 (元大分県立美術館 学芸員)

中臣 一 (竹工芸家)

山下 謙一郎 (別府竹製品卸商業組合 副理事長)



くらしの中の竹工芸展賞(グランプリ)

作品名 眼差し 03

制作者 長谷川 絢



【講評】

束ね編みから網代編みに変化する、作者の得意とする技法による作品。柎割のひごや黒竹をうまく使い、素材を活かした優れた作品。台を取り、脚を付けたことにより全体の形が際立ち、新しさを感じさせる。

【経歴】

1986年 神奈川県生まれ

2009年 京都伝統工芸大学校 高度専門課程(竹工芸・編組)卒業
放送大学 教養学部 卒業

2009-2011年 青年海外協力隊(ベネズエラ・竹工芸)参加

2015年 「Japanese Bamboo and the World Expo: A Century of Discovery」展
Japanese Friendship Garden(サンディエゴ、アメリカ)

2016年 「第38回日本新工芸展」新入選
「第37回九州新工芸展」新入選

2017年 「第22回全国竹芸展」最優秀賞(栃木)
「改組 新 第4回日本美術展覧会」新入選

2019年 「第55回くらしの中の竹工芸展」別府商工会議所会頭賞

2018-2019年 「Japon-Japonismes, Objets inspires 1867-2018」展
パリ装飾美術館(パリ、フランス)

2021年 「第57回くらしの中の竹工芸展」別府市長賞、特別賞(竹・ルネサンス賞)

2023年 「跳躍するつくり手たち」展 京都市京セラ美術館(京都)

【活動・作品づくりへの思いなど】

他者と接することで生じる意識をテーマに、リサーチと分析を繰り返しながら制作を行っている。

竹の伝統技法である「束ね編み」を独自に発展させた「筒束ね編み(つつたばねあみ)」を用いた彫刻作品を2017年から発表開始。筒束ね編みを用いた作品を中心に、各地で発表している。

大分県知事賞

作品名 chat

制作者 米澤 二郎

【講評】

網代編みによるシンプルな造形ながら、細い線のみで大胆な曲線を表し、タイトルのとおり親密なおしゃべりを抽象的に表現した作品。



【経歴】

- 1956年 大分県佐伯市生まれ
- 1981年 別府産業工芸試験所修了
- 1982年 小野正勝氏に師事
大分県別府職業訓練所竹工芸科修了
- 1989年 渡米
- 2006年 コッツェン・バンブー賞受賞 他受賞歴多数
- 2007年 帰国

【活動・作品づくりへの思いなど】

別府で竹工芸を学んだ後、1989年に渡米。全米各地で個展、グループ展を開く。
竹の大型野外彫刻も制作。

別府市長賞

作品名 パーティのための盛かご

制作者 大谷 健一



【講評】

美しさだけでなく、大きさと高さのバランスに優れ、底に使った板で安定感を有している。タイトルのとおり、パーティで様々なものを入れ、見映えする作品。

【経歴】

- 1965 年 埼玉県生まれ
- 2003 年 大分県竹工芸訓練・支援センター 竹工芸科 入校
- 2004 年 大分県竹工芸訓練・支援センター 研究指導課 中堅技術者養成指導研修入校
- 2005 年 伝統工芸士 油布昌伯氏に師事 竹かご製作工房 竹楓舎 主宰
- 2006 年 第42回別府市暮らしの中の竹工芸展 別府市観光協会賞 他受賞歴多数
- 2018 年 別府竹細工伝統工芸士 認定

その他、ニューヨーク、ミラノなど国内外での展示、実演多数

【活動・作品づくりへの思いなど】

日常をちょっと素敵にする竹のモノたち。

作り手の"手"の温もりが、手に取った人々のその"手"に伝わるような、"ものづくり"をしていきたいと考えます。多くの人に手に取ってほしい、多くの人に使ってほしい…ちょっと素敵な日常のために…。

大分県産のマダケを使い竹の持つ風合いを生かしながら、シンプルで毎日の暮らしに "ほんの少しの"やすらぎを得られるような竹かごを目指し、日々 "手考錯誤" しながら製作しております。

別府竹製品協同組合理事長賞

作品名 山路編み盛りかご

制作者 小串 照彦



【講評】

花籠に多く使われる山路編みを盛籠に応用しており新しさを感じさせる作品。

ひごの幅を変えることによりリズムカルで美しい波模様が表れている。表裏の編地を合わせて美しく処理されている。

【経歴】

1942年 熊本県生まれ

熊本県伝統工芸館で竹工芸教室に通い、約10年学ぶ。

2000年 独立

熊本県美展に多数入選。

2021年 第76回熊本県美展協会賞(工芸部門)受賞

2022年 第56回西部伝統工芸展 入選

2023年 第57回西部伝統工芸展 入選

【活動・作品づくりへの思いなど】

以前は生活工芸に傾注していましたが、近年は美術工芸に専念しています。

今回の作品は、白竹の清素を出そうと仕上げました。

近年は、花籠を中心に全力投球しています。

別府竹製品協同卸商業組合理事長賞

作品名 Fit

制作者 清水 貴之

【講評】

タイトルのおり体にフィットする工夫がなされており、また、収納時に持ち手が広がらないような気配りもされている。

コロナ禍が終わり、外出機会が増える中で、積極的に使ってもらいたい作品。



【経歴】

1979年 大阪府生まれ。

2003年 大学在学中に東南アジア、インド、ネパールなどを訪れて竹に出会う。

2004年 大分県竹工芸訓練支援センター入校後、日展作家 森上仁氏に4年間師事。

2005年 大分県竹工芸訓練センター中級技術者養成コース修了。

2007年 竹職人として独立し、制作活動の他、各地で実演、ワークショップを行う。

2018年 ニューヨーク J-collabo Annual art competition グランプリ 他受賞歴多数
別府竹細工伝統工芸士 認定

その他、ニューヨーク、パリ、イスラエル、カリブ海など国内外での展示、実演多数

【活動・作品づくりへの思い】

東京と別府を行き来しながら、籠からインテリアまで常に新しい分野に挑戦している。

海外での展示会、ワークショップも数多く開催している。

大分みらい信用金庫理事長賞

作品名 まるい・しかくい

制作者 藤元 美月



【講評】

「かるい」という宮崎県高千穂地方の伝統的な背負いかごに使用される、麻葉くずし編みを現代的なバッグに応用した作品。ショルダーバッグとして材料の竹やそれに合わせる布等も丁寧に選定されており、将来性を感じさせる。

【経歴】

1996年 宮崎県生まれ。

2022年 大分県立竹工芸訓練センター入校
在籍中(2024年3月修了見込)

【活動・作品づくりへの思い】

竹という素材の面白さや美しさがわかりやすく伝わるような作品づくりを心掛けています。

また、私が見たり感じたり経験したことや関わりがあるもの・ことをモチーフに制作をしており、今回の受賞作品は、地元宮崎の伝統工芸品「かるい」がモチーフとなっています。

「かるい」ならではの編みの美しさや形を支える力竹のフォルムを活かしつつ、シンプルな丸と四角の形を作り、「まるい・しかくい」と名付けました。

別府市議会議長賞

作品名 ティーテーブル

制作者 大谷 良三

【講評】

ござ目編みによりシンプルかつ頑丈に作られたベテランらしい作品。テーブルとしてとても安定しながら、動作の邪魔になる部材もなく、見た目もすっきりしており、使いやすさが考えられた作品。



【経歴】

1956年 大分県杵築市出身

2000年 別府竹細工伝統工芸士 認定

2010年 平成22年度全国伝統的工芸品公募展

財団法人伝統的工芸品産業振興協会会長賞 他受賞歴多数

【活動・作品づくりへの思い】

生活の中に取り入れ、「使って楽しい」と思えるような作品の制作を行っています。

併せて、用の美を感じられるものづくりを志しています。

別府商工会議所会頭賞

作品名 春の宴

制作者 一木 律子



【講評】

白竹で繊細に作られた柄付きの盛かご。
縁巻きや柄の籐による繊細さや、差六つ目
編みによる風車模様の軽快さを有し、見る人が使い方を考えたいくなるような作品。

【経歴】

1975年 大分県大分市出身
2010年 大分県立竹工芸訓練センター修了
2015年 工房名 福籠～fukurou～として活動開始
大分市アートプラザ「竹工芸教室」講師として就任
東京・神奈川にて展示会開催
2022年 第58回「くらしの中の竹工芸展」別府市議会議長賞 受賞 他

【活動・作品づくりへの思い】

白竹を使った暮らしに寄り添った竹細工を制作しております。竹の色があめ色に変わるまで長くご愛用していただけるようなものづくりを目指しています。

別府市観光協会会長賞

作品名 縦型ティッシュケース

制作者 池田 義弘

【講評】

あぜござ目編みによる、実用性と見た目のかわいらしさを兼ね備えた作品。

縦型のティッシュケースで、壁に掛けることもできるという新たな提案であり、ホテルの部屋などに置いてもマッチする。



【経歴】

1982年 新潟県生まれ
埼玉県出身

2022年 大分県立竹工芸訓練センター入校
在籍中(2024年3月修了見込)

【活動・作品づくりへの思い】

実際の使い心地や使用場所との調和を意識して作っています。

道具としての実用性だけでなく、それ自体が存在することで空間が心地良いものになるようなものを作りたいです。

大分合同新聞社社長賞

作品名 星の盛りカゴ

制作者 吉田 草史



【講評】

亀甲編みによる星形のかごで、作者の高い技術力により美しい造形となっている。

【経歴】

- 1991年 長野県生まれ
- 2022年 大分県立竹工芸訓練センター修了
同年から高見八州洋氏に師事（現在修業中）
- 2022年 第58回暮らしの中の竹工芸展 別府市長賞
第40回くらしの工芸展 熊本市賞
- 2023年 第59第くらしの中の竹工芸展 大分県知事賞
第41回くらしの工芸展 宮崎審査員奨励賞

【活動・作品づくりへの思い】

丈夫で鑑賞にも堪えるようなモノづくりをモットーに日々励んでいます。
新しいことも取り入れつつ、ぶれずにモノづくりの道を邁進していきたいと思っています。

第 60 回記念賞 マーゴ・トーマ賞

作品名 蟒(うわばみ)

制作者 後藤 哲律

【講評】

作者が作り続けているパターンによる、初めてのオブジェ作品であり、新しさを感じる。非常に丁寧に作られており、角の処理やつなぎ目も美しい。今後の発展として、三角形の大きさを変化する、透かすなどの様々な工夫が期待できる。



【経歴】

1981年 宮崎県生まれ
2017年 大分県立竹工芸訓練センター修了
(有)岩尾竹藍入社 2代目岩尾豊南に師事
2021年 第57回くらしの中の竹工芸展 別府市長賞
2023年 第59回くらしの中の竹工芸展 別府市長賞・特別賞

【活動・作品づくりへの思い】

日頃は職人として、師匠のご指導を賜りながら技術向上に努めています。
作品を制作するときは、職人として培ってきた技術を活かしつつ、自分だけの特色ある作品づくりを目指しています。